

重要文献

Gaind and Saini, *Ind. J. Pharm.* 27, 145-147 (1965).

Gaind and Saini, *Ind. J. Pharm.* 30, 233-234 (1968).

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook, Class 2d – Contraindicated in acute cough, acute diarrhea, and early stage dysentery.

Notice: Tannins (25.0-30.0%)

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか（情報がある場合のみ）

評価：B

局外生規収載で、漢方処方に配合されており、医薬品としての使用実態がある。また、緩下作用のある sennoside A を含有している。

名称 カシュウ

他名等 ツルドクダミ

部位等 塊根 備考 茎・葉は「非医」

学名(科名) *Polygonum multiflorum* Thunb. (Polygonaceae)タデ科 [局方]

生薬名、基原植物和名等 ツルドクダミ [局方] 生薬名：何首烏 [局方]

医薬品として使用実態があるか Yes 局方収載

緩下剤として塊根 1 日量 10~20g に 800ml の水を加えて煎じ、2~3 回に分けて服用する。慢性胃腸炎には 1 日量 5~15g に 500~600ml の水を加えて煎じ服用する。主に漢方処方に配合される。

210 処方中の配合処方：1 (当帰飲子)。その他、何人飲 (張景岳方：何首烏、人參、当帰、陳皮、生姜) など

毒性データ (LD50 等) RTECS に無し。

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

根にアントラキノン類のクリソファノール、エモジン、レインを含む。 [Tsukada, *Yakugaku Zasshi*, 74, 230 (1954), 牧野和漢薬草大図鑑]

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

根に 2,3,4'-テトラヒドロキシスチルベン-2-O-グルコシド、リポプロテイン、レシチン、タンニンなどを含む。 *ent*-Epicatechin、Piceid、Resveratrol、Rhaponticin

主要な生理活性

何首烏には降血脂作用、抗菌作用があることが知られており、またクリソファノールには腸管の運動を促進させる作用がある。緩下、整腸、強壯剤として、便秘、慢性胃腸炎、腰膝痛、遺精などに用いられる。

Piceid: antifungal and antibacterial activities. In addition, it inhibits deposition of lipid peroxides and cholesterol in injured liver of rats, similar to resveratrol (q. v.).

Resveratrol: antibacterial and antifungal activities. Inhibits lipid peroxidation induced by ADP, NADPH in rat liver microsomes, and deposition of triglyceride and cholesterol, thus having a protective action and a lipid lowering activity.

Rhaponticin: antifungal activity against *Paelus schoreiuitzii*.

重要文献

Tsukada, *Yakugaku Zasshi*, 74, 230 (1954), 牧野和漢薬草大図鑑

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook, Class 2d – Contraindicated with diarrhea; prepared root and stem may cause gastric distress; raw root is cathartic.

The Complete German Commission E Monographs には *Polygonum aviculare* のみ p.157

評価：A

局方に収載されているなど医薬品としての使用実態があり、劇薬相当のエモジンを含む。

名称 カスカラサグラダ

他名等 英名 Cascara sagrada bark (Com E)

部位等 樹皮 備考

学名(科名) *Rhamnus purshiana* DC. (Rhamnaceae) クロウメモドキ科 [Com E]

生薬名、基原植物和名等

医薬品として使用実態があるか Yes Com E、EP

小城製薬が製造承認を取得している。

緩下剤として1回2g、1日6gを常習便秘に用いる。流エキスまたは糖衣錠として緩下剤とする。

毒性データー (LD50 等) RTECSに *Rhamnus* 属無し。

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

アントラキノン類でカスカロシド A、B、C、D、バルバロイン、クリサロインのほか、脂肪油、タンニンなどを含む。新鮮なものはアントラキノールを含み、嘔吐を催すが、徐々に酸化されてアントラキノンに移行するため、半年～1年以上経過したものをを用いる。[牧野和漢薬草大図鑑]

アントラキノン類の含量はバルバロインとして約5%である。 [Fairbairn, J.W. and Simic, S., *J. Pharm. Pharmacol.* 16, 450-454 (1964)]

Chrysophanic acid 9-anthrone、Chrysophanol、Physcion 8-glucoside

主要な生理活性

Cascaroside A: responsible for the cathartic action of *Rhamnus purshiana* bark.

Chrysophanic acid 9-anthrone: Fungicidal activity, and highly effective inhibitor of dermatophyte growth.

Chrysophanol: Activity against termites in teak wood. It is used as a natural dye.

Physcion 8-glucoside: Undefined physcion monoglucoside from *Rheum palmatum* (presumably 8-glucoside) exhibits cathartic activity.

[Dictionary of Plant Toxins, Phytochemical Dictionary]

重要文献

Fairbairn, J.W. and Simic, S., *J. Pharm. Pharmacol.* 16, 450-454 (1964)

その他注意すべき点

アメリカ、ヨーロッパで一般に使用され、USP、EPなど現在多くの国定薬局方に収載されている。

同属植物 *R. frangula* L. はヨーロッパ、中央アジアに分布し、幹皮(フラングラ皮)を同様に用いる。

また *R. cathartica* L. の果実もラムヌス実として同様に用いる。

Botanical Safety Handbook, Class 2b; 2c; 2d – Contraindicated in intestinal obstruction, abdominal pain of unknown origin, or any inflammatory condition of the intestines (appendicitis, colitis, Crohn's disease, irritable bowel, etc.); and in children less than 12 years of age; not for long-term use in excess of 8-10 days.

The Complete German Commission E Monographs p.104

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価：A

ヨーロッパで医薬品として使用されており、瀉下作用を持つanthrone誘導体が5%以上含有されている。

名称 カッコウ（１）

他名等 カワミドリ、パチヨリ 英名 patchouly [BSH]

部位等 地上部 備考

学名（科名） *Pogostemon cablin* Bentham シソ科(Labiatae)

生薬名、基原植物和名等 生薬名 藿香 [局外生規]

医薬品として使用実態があるか Yes 局外生規

210 処方中の配合処方：6（藿香正気散、香砂平胃散、香砂六君子湯、錢氏白朮散、丁香柿蒂湯、不換金正気散）

毒性データ（LD50 等） patchouly oil: LD₅₀ > 5g/kg (rat, oral)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

sesquiterpene alkaloids: patchoulipyridine, guaipyridine (=epiguaipyridine) [Büchi, G. *et al.*, *J. Am. Chem. Soc.* 88, 3109 (1966)]

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

cinnamaldehyde [Phytochemical Dictionary]

sesquiterpene alcohol: patchouli alcohol [Phytochemical Dictionary]

sesquiterpene hydroperoxides: 10 α -hydroperoxy-guaia-1,11-diene, 1 α -hydroperoxy-guaia-10(15),11-diene, 15 α -hydroperoxy-guaia-1(10),11-diene, (sesquiterpene) [Kiuchi, F. *et al.*, *Chem. Pharm. Bull.* 52, 1495 (2004)]

主要な生理活性

重要文献

その他注意すべき点

現在藿香として市販されているものは広藿香、つまりパチヨリ *Pogostemon cablin* (Blanco) Benth. の葉または全草であり、広東省、海南島で栽培されるためこの名がある。

Botanical Safety Handbook, Class 1

The Complete German Commission E Monographs 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか（情報がある場合のみ）

評価：B

局外生規に収載され、また、漢方処方に配合されるなど、わが国で医薬品としての使用実態がある。また、アルカロイドも含むため専ら医薬品としておくべきである。カワミドリは局外生規におけるカッコウではないので、別項とすべきである。

名称 カッコウ（２）

他名等 カワミドリ、パチョリ 英名 agastache [BSH]

部位等 地上部 備考

学名（科名） *Agastache rugosa* (Fisch. et Mey.) O. Kuntze, (Labiatae) シソ科

生薬名、基原植物和名等 カワミドリ [牧野和漢薬草大図鑑]

医薬品として使用実態があるか Yes?

カッコウとしては局外生規に収載されており、使用実態がある。

毒性データ（LD50 等） RTECS に無し。

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

p-Anisaldehyde, estragole, *p*-methoxycinnamaldehyde, pachypodol (flavonol, LD₅₀ > 5g/kg (mouse, oral))

[Phytochemical Dictionary]

主要な生理活性

精油成分に健胃、発汗、止嘔作用があり、メタノール浸出液は皮膚癬菌に対し、比較的強い抗菌作用がある。方向性健胃剤、風邪薬などとして、食欲不振、消化不良、嘔吐、下痢、風邪などに用いられる。

[牧野和漢薬草大図鑑]

p-Anisaldehyde: fungistatic activity. Its odour resembles that of coumarin (q. v.); it is used in perfumery and toilet soaps, and in organic syntheses.

Estragole: stimulates liver regeneration. It shows hypothermic and DNA binding activities. It is used in perfumes and as a flavour in foods and liqueurs.

p-Methoxycinnamaldehyde: herbicidal activity, and active against germination in *Abutilon avicennae* (Illiciaceae).

Pachypodol: antiviral activity.

[Phytochemical Dictionary]

重要文献

その他注意すべき点

日本ではカワミドリは腓草香で、藿香ではないとされたことがあるが、中国の「薬材学」などではカワミドリを藿香として用いている。 [牧野和漢薬草大図鑑]

Botanical Safety Handbook, Class 1

The Complete German Commission E Monographs 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか（情報がある場合のみ）

評価：B

局外生規に収載され、また、漢方処方に配合されるなど、わが国で医薬品としての使用実態がある。また、アルカロイドも含むため専ら医薬品としておくべきである。カワミドリは局外生規におけるカッコウではないので、別項とすべきである。

名称 カッコン

他名等 クズ

部位等 根 備考 種子、葉、花、クズ澱粉は非医

学名（科名） *Pueraria lobata* (Willd.) Ohwi (Leguminosae) マメ科 [局方]

生薬名、基原植物和名等 クズ[局方] 生薬名 葛根[局方]

医薬品として使用実態があるか Yes 局方収載

感冒、神経痛などに、葛根 1 日量 8~15g に水 400ml を加え、半量になるまで煎じ詰めたものを 3 回に分けて暖めて服用する。ただし、汗をかきやすく、胃の弱い虚弱体質者には用いないほうがよい。

210 処方中の配合処方：9（葛根黄連黄芩湯、葛根紅花湯、葛根湯、葛根湯加川芎辛夷など）

毒性データ（LD50 等）

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

根にでん粉、ダイジン、ダイゼイン、プエラリン、プエラリン-7-キシロサイドなどのイソフラボン誘導体、カッコネイン、プエラロールなどを含む。[牧野和漢薬草大図鑑]

プテロカルパン(-)-Glycinol [Phytochemical Dictionary]

主要な生理活性

葛根の水浸液は温刺ウサギに対して解熱作用がある。またダイゼインの量に比例してパパペリン類似の痙攣作用があり、他のイソフラボンにはこの作用はみられない。近年葛根から構造未詳のアセチルコリン様物質が確認され、また精油抽出物に副交感神経抹消刺激作用、消化器官賦活作用があることが発見された。葛根は発汗、解熱、鎮痙薬として熱性病、感冒、首、背、肩こりなどに用いられる。[牧野和漢薬草大図鑑]

(-)-Glycinol: Antifungal activity.

Puerarin: Hypotensive, and increases coronary resistance. The roots of *Pueraria lobata*, *Radix pueraria*, have long been used in china to relieve the symptoms of hypertension and angina pectoris.

[Phytochemical Dictionary]

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook, Class 1

The Complete German Commission E Monographs 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか（情報がある場合のみ）

評価：B

局方収載の重要生薬であり、専ら医薬品としておくことが望ましい。

名称 カバ

他名等 カバカバ、カワカワ、シャカオ 英名 : kava, kavakava, kawa kawa, sakau [FDA/CFAN Consumer Advisory: Kava (<http://www.cfsan.fda.gov/~dms/addskava.html>)]

部位等 全草 備考

学名 (科名) *Piper methysticum* Forst. F. (Piperaceae) コショウ科 [Com E]

生薬名、基原植物和名等 カバ、カバカバ、カワカワ、シャカオ (園芸植物大事典)

医薬品として使用実態があるか No

毒性データ (LD50 等)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

ピペリジンアルカロイド (pipermethystine) [Dragull, K. *et al.*, *Phytochemistry* 63, 193 (2003)]

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか Yes

kavalactones (desmethoxyyangonin, yangonin, dihydrokawain, kawain, dihydromethysticin, methysticin)

[Dharmaratne, H.R.W. *et al.*, *Phytochemistry* 59, 429 (2002)]

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

根は鎮静、興奮性麻酔作用があり、太平洋諸島で儀式などに用いられる。その他、強壮、鎮痛作用や泌尿器系の消毒作用がある。カワインには鎮静作用、抗不安作用があることが知られている。[牧野和漢薬草大図鑑]

5,6-Dehydrokawain (= desmethoxyyangonin): Anticonvulsive and anaesthetic activities.

Dihydromethysticin: Spasmolytic activity.

Kawain: Spasmolytic, local anaesthetic, anti-inflammatory, antimycotic and anti-oedemic activities.

Methysticin: Spasmolytic activity.

Yangonin: Spasmolytic activity.

[Phytochemical Dictionary]

重要文献

Dharmaratne, H.R.W. *et al.*, *Phytochemistry* 59, 429 (2002) : kavalactones の単離。

Dragull, K. *et al.*, *Phytochemistry* 63, 193 (2003): 地上部に pipermethystine が多い。

Phytochemical dictionary 2nd Edition

その他注意すべき点

WHO Monograph Volume 2 に Rhizoma Piperis methystici として収載されている。

Botanical Safety Handbook, Root and rizome: Class 2b; 2c; 2d – Do not exceed recommended dose.

The Complete German Commission E Monographs p.156

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価 : A

向精神作用を持つ kavalactones を含む。

名称 カラバル豆

他名等 英名 Calabar bean

部位等 豆 備考

学名 (科名) *Physostigma venenosum* Balfour マメ科 (Leguminosae) [牧野和漢薬草大図鑑]

生薬名、基原植物和名等

医薬品として使用実態があるか Yes

緑内障特効薬等であるサリチル酸フィゾスチグミン、硫酸フィゾスチグミン (いずれも USP および EP 収載) などの医薬品の製造原料に用いる。これらの医薬品は副交感神経作用薬として手術後の排尿困難や腸麻痺、筋無力症に用いるほか、眼科領域で緑内障、角膜炎などに用いる。またアトロピン、クラレ、ストリキニーネなどの中毒に対する解毒薬でもある。

毒性データ (LD50 等) physostigmine : LD₅₀ = 7.1 µg/kg - 20 mg/kg

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

アルカロイド約 0.5% を含み physostigmine (= eserine) を主成分とする。[牧野和漢薬草大図鑑, Dictionary of Plant Toxins]

eseramine, eseridine, physovenine [Dictionary of Plant Toxins]

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

Stigmasterol

主要な生理活性

フィゾスチグミンは、コリンエステラーゼを阻害することにより、コリン作動性神経に対し興奮作用の増強を起こす。縮瞳、胃腸運動亢進、骨格筋収縮などの作用を示すほか、中枢神経を興奮させる。[牧野和漢薬草大図鑑]

Eseramine: Anticholinesterase, with activity similar to but weaker than that of physostigmine (q. v.).

Eseridine: Anticholinesterase, with activity similar to that of physostigmine (q. v.). It is used for treating gastro-intestinal disorders and chronic.

Physostigmine: Anticholinesterase. It has wide ranging parasympathetic activity when taken internally, and may be used to counteract the effects of anticholinergics such as atropine (q. v.). Large doses can be fatal. The main use is in the form of eye drops as a miotic.

Physovenine: Anticholinesterase. It is similar in activity to physostigmine (q.v.), but not in clinical use.

Stigmasterol: Plays a vital structural role in the membranes of plant cells.

[Dictionary of Plant Toxins]

重要文献

Dictionary of Plant Toxins

その他注意すべき点

局方ではサリチル酸フィゾスチグミンが 13 局まで収載され、13 局第二追補で削除。硫酸フィゾスチグミンは 10 局まで収載され、11 局で削除。いずれもかつて指定医薬品 (10 局解説書及び 13 局解説書)

Botanical Safety Handbook 無記載

The Complete German Commission E Monographs 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ) 含む
physostigmine

評価 : A

毒性の強い physostigmine を含む。

名称 カロコン

他名等 オオカラスウリ／キカラスウリ／シナカラスウリ

部位等 根 備考

学名(科名) ①*Trichosanthes bracteata* Voigt, ②*T. kirilowii* Maxim. var. *japonica* (Miq.) Kitam. (= *T. japonica* Regel.), ③*T. kirilowii* Maxim. (Cucurbitaceae)ウリ科[局方]

生薬名、基原植物和名等 ①オオカラスウリ [局方]②キカラスウリ [局方]③シナカラスウリ [赤松和漢薬] 生薬名 栝楼根 [局方]

医薬品として使用実態があるか Yes 局方収載

解熱、鎮咳に、栝楼根 1 日量 3~5g を 400ml の水で煎じ、2~3 回に服用する。

210 処方中の配合処方：2 (柴胡去半夏加栝楼湯、柴胡清肝湯)

毒性データ (LD50 等) Trichosanthin: LD50 = 5.9 mg/kg (mouse, subcutaneous)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

③Trichosanthin [Dictionary of Plant Toxins]

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

根に多量のでん粉のほか、シトルリン、 γ -アミノ酪酸、トリコサン酸、アルギニン、コリン、ステイグマステロール、 β -シトステロール、種子にリノール酸、リノレイン酸などが含まれる。

主要な生理活性

栝楼仁には抗癌作用のあることが報告されている。臨床的に、根に止渴、解熱、催乳、鎮咳など、種子に解熱、去痰、鎮咳などの作用が認められており、解熱、止渴、消腫薬として咽喉痛、呼吸器病の解熱、口渇、去痰などに用いられる。また根から得られたでん粉を天花粉と呼び、小児の皮膚病や汗知らずなどに外用される。

Trichosanthin: Abortifacient used clinically in China.

重要文献

Dictionary of Plant Toxins Maraganore, J.M., *J. Biol. Chem.* 262, 11628-11633 (1987)

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook, Class 1 / Note: Chang and But report rare cases of mild diarrhea and gastric discomfort.

The Complete German Commission E Monographs 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価：A

毒性タンパク質である trichosanthin を含む。

名称 カロライナジャスミン

他名等 英名 Yellow Jessamine (Com E)

部位等 全草 備考

学名 (科名) *Gelsemium sempervirens* Aiton (Loganiaceae) [Com E]

中薬大辞典では、*Gelsemium elegans* Benth. を、コウフン (異名 野葛) フジウツギ科で記載。カロライナジャスミンは、北米産コウフンと記載がある。

園芸植物大辞典では、*G. sempervirens* について日本では一般にカロライナジャスミンの名でとおっているとの記載がある。

牧野では、マチン科ゲルセニウム属と記載があるが、中薬大辞典および稲垣生薬学では、Loganiaceae をフジウツギ科としている。現在はフジウツギ科は Buddlejaceae IPINI では Loganiaceae にはいつている生薬名、基原植物和名等 ゲルセミウム (牧野和漢薬)

医薬品として使用実態があるか Yes Com E (全草ではなく、Yellow Jessamine root で記載)

毒性データ (LD50 等) oral child LDLo 7.4 mg/kg; *G. elegans*: 25mg/kg i.p. mouse

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

ゲゼルミン等 gelsemicine, gelsemine, sempervirine indole alkaloid 含有

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

前述のとおり

主要な生理活性

頭痛、偏頭痛、神経痛、喘息、リウマチ

中枢神経麻痺作用 中毒症状として複視、めまい、呼吸機能低下ののち、死に至る。(牧野和漢薬)

重要文献

その他注意すべき点

Com E: because of the narrow therapeutic range, numerous intoxications have occurred, some with fatal consequences.

Botanical Safety Handbook なし

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価: A

有毒アルカロイドを含む。

名称 カワラタケ

他名等

部位等 菌糸体 **備考** 子実体は「非医」

学名 (科名) *Coriolus versicolor* (Fr.) Quel (Polyporaceae) サルノコシカケ科 (難波和漢薬で靈芝：マンネンタケの解説の項に記述)

生薬名、基原植物和名等

医薬品として使用実態があるか Yes

クレスチン (かわらたけ由来抗悪性腫瘍剤) を産生する

毒性データ (LD50 等)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

Protein-bound polysaccharide; biological response modifier having immunostimulant and anticancer properties:

krestin クレスチン免疫賦活剤

重要文献

その他注意すべき点

学名で CA 956 件ヒット

Coriolan-33 (Antibiotic compounds) を産生する。本化合物の LD50 は、2g/kg (oral, mouse)

Botanical Safety Handbook、赤松和漢薬、中薬大辞典に無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ) Yes

クレスチン Krestin は指定医薬品。要指示医薬品

評価 : B

免疫賦活剤クレスチンの産生菌糸体である。

名称 カンショウコウ

他名等 英名 jatamansi, nard, spikenard (BSH)

部位等 根 備考

学名(科名) *Nardostachys jatamansi* DC (Valerianaceae) オミナエシ科 (赤松和漢薬)

中薬大辞典では、*N. chinensis* Batalin

生薬名、基原植物和名等 カンショウコウ (赤松) 生薬名 甘松香

医薬品として使用実態があるか No

毒性データー (LD50 等)

essential oil i.p. LD50 900mg/kg, mouse, i.v. dog, LD50: 93mg/kg (劇薬相当)

extract i.p. rat LD50: 353mg/kg

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

精油、セスキテルペン

主要な生理活性

スパイナードはアロマテラピーでは最も重要な精油のひとつ

鎮痛剤、芳香性健胃、薫香料

重要文献

その他注意すべき点

emmenagogues/ uterine stimulant 子宮刺激剤

Botanical Safety Handbook 2b Not to be used during pregnancy

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価：A

精油の毒性が劇薬相当。

名称 カントウカ

他名等 フキタンポポ 英名 Coltsfoot leaf (Com E)

部位等 花蕾 備考 葉・幼若花茎は「非医」

学名(科名) *Tussilago farfara* L. (Compositae) キク科 (中薬大辞典) (赤松和漢薬)

生薬名、基原植物和名等 カントウ、フキタンポポ (赤松和漢薬)、ファルフアラ

生薬名 花：款冬花 (中薬大辞典)

医薬品として使用実態があるか Yes Com E

毒性データ (LD50 等)

oral, rat TDLo 4800g/kg (*Japanese J. of Cancer Res.*)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

senkirkine tussilagine (Pyrrolizidine alkaloid) necine (pyrrolizidine alkaloid)

tumorigene: tumorigenic data intraperitoneal rat, TDLo 300mg/kg

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

senkirkine

主要な生理活性

呼吸器系に対する作用 中薬大辞典では喘息の治療、慢性気管支炎の治療が臨床報告として記載

重要文献

その他注意すべき点

contraindications: pregnancy, nursing (Com E)

Botanical Safety Handbook 2b, 2c not to be used during pregnancy and nursing 2d: long-term use is not recommended

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価：A

腫瘍形成作用をもつ有毒アルカロイド senkirkine を含む。Commisson E 及び BSH での記載に禁忌がある。

名称 カンボウイ

他名等 シマハスノハカズラ

部位等 茎・茎根 備考

学名(科名) *Stephania tetrandra* S. Moore, (Menispermaceae) ツツラフジ科 シマハスノハカズラの和名に対応するものは、この植物(赤松、難波)

生薬名、基原植物和名等 シマハスノハカズラ 生薬名 粉防己 (赤松)

医薬品として使用実態があるか No ただし中薬大辞典に収載

CPでは防己で使用する生薬はこの植物、植物名を「粉防己」と記述

毒性データ (LD50 等) i.p. mouse LD50 113mg/kg

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

tetrandrin LD50 41.3 mg/kg i.p. mouse

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

tetrandrine, dimethyltetrandrine, fanchimonline

主要な生理活性

利尿、去風止痛、小便不利、高血圧等

重要文献

その他注意すべき点

名前の混乱があるので、注意が必要。局方ではボウイは、オオツツラフジ *Sinomenium acutum* Rehder et Wilson (Menispermaceae)が基原で生薬名が防己 中国薬典では本植物が防己 (Fangji) の基原植物。

ツツラフジ(防己)やシマハスノハカズラ(粉防己)には、*aristolochic acid* は含まれないが、広防己 (Guangfangjitono)との取り違えで、*Aristolochia fangchi* が用いられることがある。また赤松では、ツツラフジ *Stephania acutum* 及びコウモリカズラ *M. dauricum* DC. var. *piosum* Schn. シマハスノハカズラ *Stephania tetrandra* S. Moor. ハスノハカズラ *Stephania japonica* Miers. 等より採るを漢防己ということがありと記述。難波和漢薬では、粉防己が *Stephania tetrandra*, 広防己(木防己)が *A. fanchi*, 漢中防己が *A. heterophylla*, 木防己が *Cocculus trilobus* (アオツツラフジ)、漢防己が *Sinomenium acutum*。

Botanical Safety Handbook class 1 Com Eは無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価 : :A

劇薬 tetrandrin を含むこと及び、*aristolochic acid* を含む *Aristolochia* 属の生薬との取り違えが起こる可能性がある。名称カンボウイは、基原に混乱を生じるおそれがあり、シマノハカズラを名称とすべき。

名称 カンラン

他名等 英名 white Chinese olive (BSH)

部位等 果実 備考

学名(科名) *Canarium album* Raeusch, (Burseraceae) カンラン科 (広東、広西、福建、四川、雲南、台湾で産, 中薬大辞典)

生薬名、基原植物和名等 カンラン (中薬大辞典) 生薬名 橄欖

医薬品として使用実態があるか No ただし中薬大辞典には収載

毒性データ (LD50 等) *Canarium manii*, *C. bengalense* : i.p. mouse 1g/kg 以上

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

stilbene gallic acid: *Zhongguo Zhongyao Zazhi* (1999), 24(7), 421-423

triterpenes: *Planta Medica* (1989), 55(1), 44-7

Fatty acid composition of the seed oil of *Canarium album* Raeusch: *Yukagaku* (1976), 25(9), 561-2

主要な生理活性

Antimicrobial activity: *Shipin Kexue* (Beijing) (2001), 22(3), 82-84 8 (Chinese)

重要文献

その他注意すべき点

CA13 件ヒット

仁は橄欖仁として食用。月餅(げっぺい)に入っている

Botanical Safety Handbook class 1

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか(情報がある場合のみ)

評価: E

仁、果実とも食の実績があること及び、同属植物のLD50値より、食薬区分の見直しの対象となると考えられる。

名称 キササゲ

他名等 シジツ、トウキササゲ

部位等 果実 備考

学名(科名) ①*Catalpa ovata* G. Don ②*Catalpa bungei* C.A. Meyer (Bignoniaceae)ノウゼンカズラ科(局方)

生薬名、基原植物和名等 ①キササゲ(局方)、②シナキササゲ(難波)、トウキササゲ(赤松)

生薬名 キササゲ(局方・難波)、シジツ(梓実)(難波)、シンジツ(梓実)(赤松)

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

毒性データ(LD50等) *C.longissima* LD₅₀ 10g/kg i.p. mouse

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

Catalposide, the major iridoid glycoside isolated from the stem bark of *Catalpa ovata* G. Don (Bignoniaceae): *International Immunopharmacology* (2002), 2(8), 1173-1181

Conjugated trienoic acid glycerides, conjugated polyunsaturated fatty acid glycerides : カネボウ特許

catalpol, Studies on the constituents of *Catalpa* species: *Natural Medicines* (Tokyo, Japan) (2001), 55(3), 147-148, *Natural Medicines* (Tokyo, Japan) (2001), 55(2), 64-67: *Chemical & Pharmaceutical Bulletin* (2001), 49(6), 732-736 東北薬大

主要な生理活性

Cytotoxic effect (conjugated trienoic fatty acids) *Lipids* (2001), 36(5), 477-482

利尿

重要文献

その他注意すべき点

CA 80 件ヒット アメリカキササゲは *Catalpa americana*

Botanical Safety Handbook Commission E は記載なし

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価: B

局方収載医薬品である。

名称 キッピ

他名等 タチバナ

部位等 果皮 備考 葉は非医

学名(科名) *Citrus tachibana* Tanaka 又はその他近縁植物の成熟した果皮 その他近縁植物とは、コウジ *C. leiocarpa* Tanaka 及びザボン *C. grandis* Osbeck などを指す(局外生規) (Rutaceae) ミカン科

生薬名、基原植物和名等 タチバナ (局外生規) 生薬名 橘皮

なお、国内でキッピとして流通しているのは、*C. sinensis*, *C. reticulata* で陳皮と同類

医薬品として使用実態があるか Yes 局外生規

毒性データ(LD50等) *C. tachibana* では、データなし

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

flavonoids : Chemotaxonomic studies on the genus *Citrus*. I. Distribution of flavones in the subgroup

microcarpa: *Chemical & Pharmaceutical Bulletin* (1987), 35(7), 3025-8

精油、フラボン

主要な生理活性

芳香性健胃、発汗、去痰、浴湯料、漢方：健胃，鎮咳，鎮吐

重要文献

分類関係 Phylogenetic relationships among selected *Citrus* germplasm accessions revealed by inter-simple sequence repeat (ISSR) markers: *Journal of the American Society for Horticultural Science* (1998), 123(4), 612-617

その他注意すべき点

CA 23件ヒット

Botanical Safety Handbook 記載なし

評価：E

特に問題が有る成分も含まれておらず、食薬区分の見直しの対象と考えられる。

名称 キナ

他名等 アカキナノキ 英名 cinchona bark (Com E)

部位等 樹皮・根皮 備考

学名(科名) ①*Cinchona succirubra* Pavon et Klotzsch, ②*C. pubescens* Vahl (Rubiaceae) アカネ科 or of their variations and hybrids (Com E)

牧野和漢薬では *C. succirubra* Pavon をアカキナノキとしている 赤松では、キナは *Cinchona* sp.

生薬名、基原植物和名等 アカキナノキ

医薬品として使用実態があるか Yes Com E

キニーネ：マラリア治療薬 硫酸キニジン：不整脈治療剤

毒性データー (LD50 等) 115 mg/kg, mice (i.p.)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

アルカロイド総量 6-15%

キニーネ (局)、キニジン (局)、シンコニジン、シンコニン

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No
主要な二次代謝産物等

Cinchonidine (Quinoline alkaloid) Quinine (Quinoline alkaloid)等

主要な生理活性

抗マラリア活性、解熱鎮静、平滑筋刺激、抗不整脈、苦味健胃

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 2b not to be used during pregnancy, contraindicated in gastrointestinal ulcers, not exceed recommended dose

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

キニーネ、硫酸キニジンは、該当しない

評価：A

医療用重要なアルカロイド(キニーネ(局)、キニジン(局))を多量(6-15%)に含む。名称をキナ属と広く指定すべきである。